

# 理科 物理

〈出題内容・形式・配点〉

内容	形式	配点	試験時間
I 力学	マークと記述を併用	33	80分
II 電磁気	マークと記述を併用	34	
III 熱	マークと記述を併用	33	
合計		100	

## 【出題の基本方針】

高校物理の教科書「物理基礎」「物理」および学習指導要領に準拠し、力学、電磁気学に加えて、波動と光、熱、原子の各分野からバランスよく出題することを基本方針とした。

物理的な思考力を必要とする設問を基本としつつ、用語や知識や公式を問う設問、式変形を行う設問、数値的な計算を行う設問、グラフを用いる設問などを配し、受験生の力を様々な角度から推し測れるよう心がけた。また、問題を解くことが物理の能力向上に役立ち、物理への理解や興味が深まるとともに、教育的にも有意義なものとなるよう心がけた。

## 【学習のポイント】

- 物理に限らず何事もそうですが、まず基礎知識をしっかりと身につけてください。物理の学習においては、物理現象が起きるしくみをよく考えて、本質を理解することを心がけてください。使えない公式を暗記していく意味はありませんが、使えるならば公式は役に立つことでしょう。使える公式にするためには、それが表している物理法則の本質を理解していかなければなりません。使える公式にするためには、問題演習が役に立ちますが、解ければいいというのではなく、どういう物理的な考え方をすればよいのかということを意識しながら、1つ1つ進めてください。
- 立命館大学の物理の問題は、問題文を読み進めながら問題を解いていくようになっています。文章を正しく論理的に読み解く力が必要になります。問題文の誘導に従って順序立てて考えるだけで正答できる問題もあります。普段の学習や問題演習でも、教科書や問題文のポイントを意識し、文章を正しく読み解くことを意識するとよいでしょう。問題文中の解答の指定（文字定数の限定など）に従っていない「もつたない」解答が見られます。その点からも問題文を注意深く読むことは重要になります。
- 計算を伴う問題も多く出題されます。間違いを防ぐためには、「問われている量と計算結果の『単位の次元』が同じであるかをチェックする」「計算過程を確認して計算ミスを発見する」という習慣を身につけることも重要です。数式は、「意味がよくわかる」ように、約分などを行ってよく整理することも間違いを防ぐのに役に立ちます。
- 答案はていねいな字で書くことを心がけてください。